



株式会社川金ホールディングス

2018年度第3四半期 決算説明会

---

2019年2月7日

株式会社 川金ホールディングス

Copyright © Kawakin Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

# 本日の内容

---

1. 今回の不適切行為の総括、  
および、今後の対応策
2. 2018年度第3四半期 業績概要





## 1. 今回の不適切行為の総括、および、今後の対応策

---

株式会社 川金ホールディングス

Copyright © Kawakin Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

# 建築物用免震・制振用オイルダンバーの 検査工程等における不適切行為について



この度は、弊社子会社が製造した建築物用免震・制振用オイルダンバーの検査工程等における不適切行為の問題により、お取引先様及び株主様をはじめ関係各位に多大なるご迷惑とご心配をお掛けしておりますことを改めて深くお詫び申し上げます。

このほど、本件について、当社と利害関係のない外部弁護士で構成する社外調査チームより、調査結果と再発防止策の提言を受けました。弊社は、調査結果を真摯に受け止め、再発防止策を策定しました。

今後、この再発防止策を着実に実行し、当社グループにおけるガバナンスの向上と品質管理体制の強化そして、利益の拡大を図るとともに、株主の皆様のご期待に応えて参りたいと強く決意しております。引き続き弊社グループへの変わらぬご支援をお願い申し上げます。

# 免震・制振用オイルダンパーとは

## 免震用オイルダンパー



- 地盤と建物間に設けられた免震層と呼ばれる空間に設置
- ダンパー自体が揺れることで、地震などによる振動エネルギーを吸収

## 制振用オイルダンパー

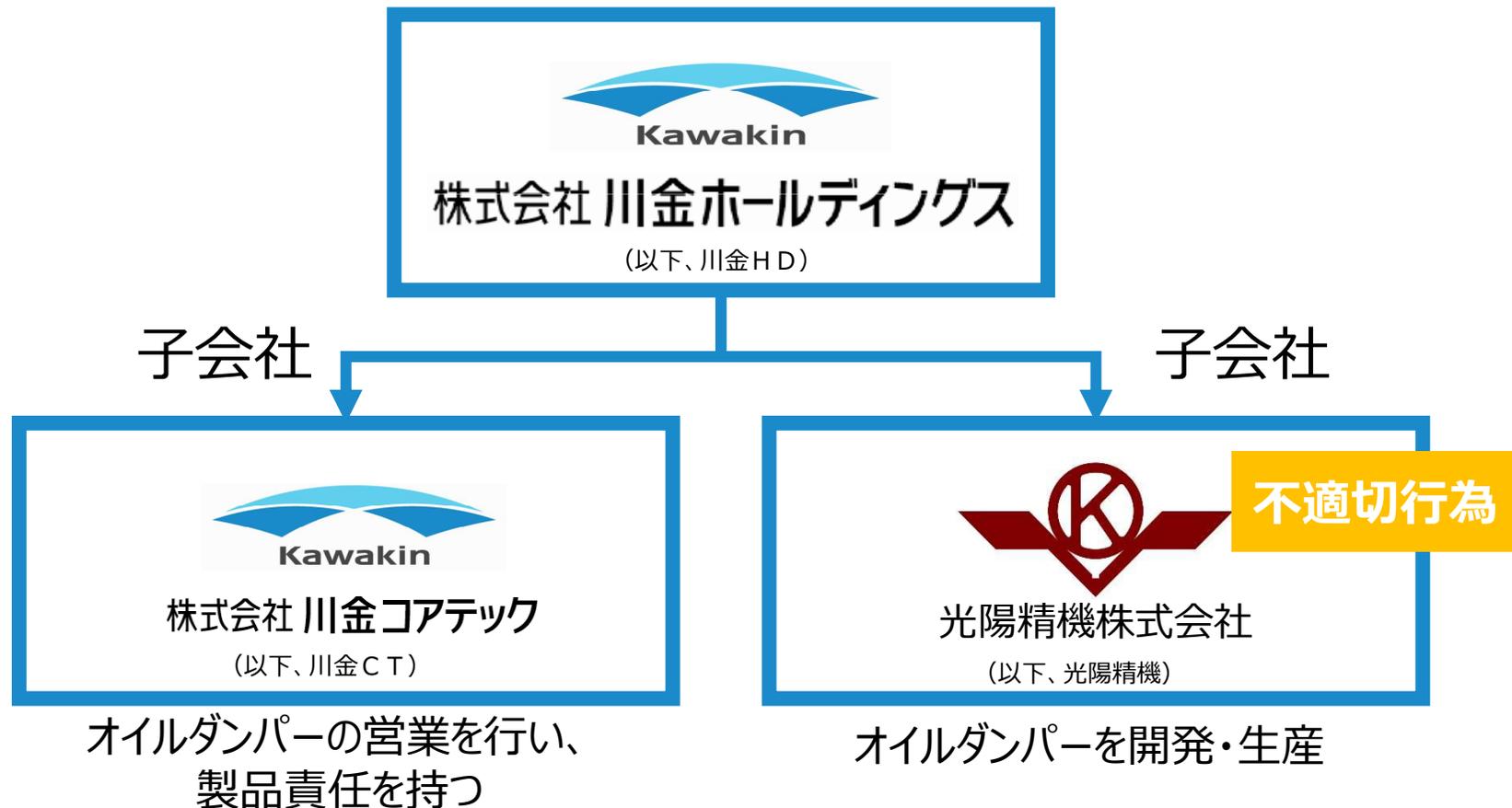


- 建物の各階に設置
- 地震などによる振動エネルギーを吸収、建物の各階の変形を抑制することで建物の揺れを低減

## 不適切行為への対応の経緯

- 
- 2018年  
10月19日
    - 他社での不正行為を受けて社内調査を行ったところ、光陽精機株式会社が製造・出荷する免震・制振用オイルダンパーにおいて、減衰力性能検査結果の一部を書き換えていた不適切行為が発覚。
    - 当社独自の社内調査に着手。
  - 10月21日
    - 国交省へ報告。
  - 10月23日
    - 不適切行為を公表。
  - 11月9日
    - 当社と利害関係のない外部弁護士で構成する社外調査チームに、これらの書換え行為の事実とその原因究明、これらが発覚しなかった原因等の解明、判明事実とその原因に即した再発防止策の提言等を委嘱。
  - 2019年  
2月7日
    - 社外調査チームの報告書をつけた再発防止策を発表

# 主な関係会社の位置づけ



# 今回の不適切行為の概要

## ■概要

- 免震・制振用オイルダンパーの一部について、性能検査記録データの書き換え行為により顧客の基準値\*を外れた製品を出荷（1,735本）

基準値\*： 顧客との契約において許容された値（±10%以内等）を超過。

但し、大臣認定において許容されている値（±15%以内）の内容には適合。

【ご参考：光陽精機が製造し、川金コアテックが販売していたオイルダンパーの対象物件数及び不適合製品数】

		不適合品		合計
		① 大臣認定不適合	② お客様基準外	
免震 オイルダンパー	物件数	0	4	4
	製品数	0	6	6
制振 オイルダンパー	物件数	-	90	90
	製品数	-	1,516	1,516

# 今回の不適切行為の原因

## ■原因

川金HD	<ul style="list-style-type: none"><li>• 子会社の管理監督機能が不十分</li><li>• グループ会社間の協働意識が希薄</li><li>• 企業理念、品質方針などの展開不足</li></ul>
川金CT	<ul style="list-style-type: none"><li>• オイルダンパーへの当事者意識不足、品質保証体制に踏み込まず</li><li>• 営業の川金CTと開発・生産の光陽精機との連携不足</li></ul>
光陽精機	<ul style="list-style-type: none"><li>• オイルダンパーの開発がブラックボックス化</li><li>• 量産時に安定的な性能を発揮できるか検討不十分</li><li>• 受注・納期を優先しすぎ、性能検査結果を書き換えた</li><li>• 再調整を考慮しない納期での受注を継続</li><li>• 技術者倫理意識、規範遵守意識の著しい欠如</li><li>• 品質保証の責任意識が欠如</li><li>• 品質保証部の独立性不足</li></ul>

# 再発防止に向けた改善措置

## ■グループ連携を活かした再発防止策の考え方

	従来	今後
考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>各社が強みを活かして分担</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>川金ホールディングスが強いリーダーシップでリード</li> </ul>
連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>連携が不十分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロセスと仕組みの再構築で関係を徹底強化</li> </ul>
品質保証	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な品質保証体制グループ・各社にはあったが適切に機能しなかった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループにある適切な品質保証体制をより有効に機能させる</li> </ul>
牽制・チェック	<ul style="list-style-type: none"> <li>牽制機能・チェック機能がうまく働かなかった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>牽制機能・チェック機能により、不適切行為を徹底排除</li> </ul>
	<p>• 受注を優先して不適切行為の動機をつくってしまった</p>	<p>• 現場・外部を含めたコンプライアンス体制を徹底して運用</p>

# 改善施策

## ■ 川金HD

- HDの行動指針等のグループ各社への具体的展開
- コンプライアンス体制の強化（グループ・コンプライアンス委員会の設置）
- グループ品質監査体制の強化
- ガバナンス体制の強化

## ■ 光陽精機

- 事業特性を踏まえた行動指針等の策定、行動指針等の教育実施
- 製品の受注検討プロセスの再構築（受注基準の明確化、川金CTによる参画）
- 生産計画、生産管理の仕組みの改善（QC工程表の再整備）
- 新規開発製品の設計・開発プロセスの改善（開発審査会の設置、品質保証部の強化）
- 検査体制、品質保証体制の再構築（品質マネジメントシステムの厳格な運用）

## ■ 川金CT

- 設計検討段階、受注段階での品質管理体制の強化
- 光陽精機の製品の品質に関する監査体制の強化
- 川金CT内でのオイルダンパーに関する技術的知識の向上
- 川金CT内での意識改革の推進

## 本件による業績への影響

- 国内の物件につきましては、構造安全性確認のための徹底的な性能検証と、検証結果の第三者機関による確認を実施。海外の物件につきましても、構造安全性の性能検証を実施。
- すでに発生した対策費用65百万円と、現状をふまえて合理的に算出した不適合品の対策費用を製品補償引当金として1,677百万円、合計1,743百万円を計上。
- 不適合品の対策費用等の引当金計上に伴い、平成31年3月期通期の親会社株主に帰属する当期純利益は3億円の見込み。



## 2. 2018年度第3四半期 業績概要

---

株式会社 川金ホールディングス

Copyright© Kawakin Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

## 第3四半期決算概要と連結業績

(百万円)

	2018年3月期 第3四半期実績		2019年3月期 第3四半期実績		増減	
	金額	比率 (%)	金額	比率 (%)	金額	%
売上高	26,976	-	28,947	-	1,971	7.3%
営業利益	1,588	5.9%	1,655	5.7%	67	4.2%
経常利益	1,751	6.5%	1,543	5.3%	-208	-11.9%
当期純利益	-342	-	-270	-	72	-

売上面	損益面
-連結売上高 前年同期比 <b>7.3%増</b> -セグメント別 <ul style="list-style-type: none"> <li>●素形材事業： 自動車部品、工作機械関連好調 同 <b>13.3%増</b></li> <li>●土木建築機材事業： 新設橋梁向け等大型物件が寄与 同 <b>5.0%増</b></li> <li>●産業機械事業： 受注好調も供給能力の上限から売上高は微増 同 <b>0.2%増</b></li> <li>●不動産賃貸部門： 同 <b>7.7%減</b></li> </ul>	-経常利益 前年同期比 <b>11.9%減</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●為替差損の計上</li> </ul> -当期純損失 <b>270百万円</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●不適合品に係る対策費用として製品補償引当金及び製品補償対策費を計上 (計<b>1,743百万円</b>)</li> </ul>

# セグメント別 売上高実績

(百万円)

	2018年3月期 第3四半期実績		2019年3月期 第3四半期実績		増減	
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	金額	%
素形材	10,913	40.5%	12,366	42.7%	1,453	13.3%
土木建築機材	10,784	40.0%	11,321	39.1%	537	5.0%
産業機械	4,886	18.1%	4,897	16.9%	11	0.2%
不動産賃貸	392	1.5%	362	1.3%	-30	-7.7%

# 連結業績見通し

(百万円)

	2018年3月期 通期実績		2019年3月期 通期予想		増減	
	金額	比率 (%)	金額	比率 (%)	金額	%
売上高	39,124	-	39,000	-	-124	-0.3%
営業利益	3,061	7.8%	2,600	6.7%	-461	-15.1%
経常利益	3,075	7.9%	2,600	6.7%	-475	-15.4%
当期純利益	926	2.4%	300	0.8%	-626	-67.6%
一株当たり純利益 (円)	46.77		15.21		-31.56	-67.5%

# セグメント別 売上高/営業利益 見通し

## 売上高

(百万円)

	2018年3月期 通期実績		2019年3月期 通期予想		増減	
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	金額	%
素形材	14,988	38.3%	15,360	39.4%	372	2.5%
土木建築機材	17,097	43.7%	16,820	43.1%	-277	-1.6%
産業機械	6,515	16.7%	6,340	16.3%	-175	-2.7%
不動産賃貸	522	1.3%	480	1.2%	-42	-8.0%

## 営業利益

(百万円)

	2018年3月期 通期実績		2019年3月期 通期予想		増減	
	金額	利益率 (%)	金額	利益率 (%)	金額	%
素形材	1,321	8.8%	1,150	7.5%	-171	-12.9%
土木建築機材	1,878	11.0%	1,480	8.8%	-398	-21.2%
産業機械	72	0.4%	220	1.3%	148	205.6%
不動産賃貸	398	6.1%	350	5.5%	-48	-12.1%
連結調整	-609	-	-600	-	9	-

# 株主還元

基準日	1株当たり配当金（円銭）		
	第2四半期	期末	合計
前回予想 （平成30年11月9日公表）	－	未定	未定
今回修正予想	－	3円75銭	3円75銭
当期実績	0円00銭	－	－
前期実績 （平成30年3月期）	3円75銭	3円75銭	7円50銭

## 【配当予想の修正の理由】

当社子会社の不適合品の対策費用等に対する引当金を計上したことから2019年3月期当期純利益は前期比▲67.6%の300百万円となる見込みです。このため、期末配当予想につきましては3円75銭とし、年間配当金につきましても3円75銭とさせていただきます

また、本資料に記載された将来の予測等は、説明会の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素を含んでおります。

実際の業績は、外部環境及び内部環境の変化によるさまざまな要素により、これらの見通しとは異なる結果となる場合があることをご承知おきください。





■ 本資料に関するお問い合わせ窓口

株式会社 川金ホールディングス

取締役経営管理部長 青木

---

TEL : 048-259-1111

FAX : 048-254-2622

URL : <http://www.kawakinhd.co.jp/>

株式会社 川金ホールディングス

Copyright© Kawakin Holdings Co., Ltd. All rights reserved.